デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026年10月15日(木)　発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

■ 日経平均株価は前日比3,318円34銭安(4.90%安)の6万4,425円95銭と6営業日続落した。下げ幅は歴代3位で、終値での6万4,000円台は9月17日以来約1カ月ぶり。一方TOPIXは97.44ポイント安(2.38%安)の3,999.34にとどまり、下落率は日経平均の半分以下だった。

■ 下げの震源は国内ではない。14日の米国市場でAIクラウド企業コアウィーブの社債利回りが9.75%から一時15%へ急騰し、SOX指数が4.30%安で6日続落。AIインフラ投資の資金調達コストが信用市場で再評価され、半導体関連に売りが集中した。

■ 物色は全面安ではなく二極化した。33業種のうち10業種が上昇し、医薬品・不動産業・小売業・パルプ紙が買われた。値下がりは946銘柄で全体の61%だが、値上がりも561銘柄。AI関連から内需・ディフェンシブへ資金が移った一日である。

■ 米9月CPIは前年同月比3.7%(コア2.6%)と予想を上回り、10月FOMCでの追加利上げ織り込みが21.6%から43.7%へ上昇。韓国ではKOSPIが7.57%安でサーキットブレーカーが発動した。16日の東京時間にはTSMC決算が控える。

2．主要指標

指標名	水準	前日比	備考
日経平均株価	64,425.95円	▲3,318.34円	6日続落、4.90%安。下げ幅は歴代3位
TOPIX	3,999.34	▲97.44	6日続落、2.38%安。4,000ポイント割れ
東証プライム売買代金	10兆1,401億円	+2兆6,894億円	売買高30億2,794万株。15日大引け速報
値上がり／値下がり銘柄数	561／946	—	変わらず39。15日15時32分時点の集計
新発10年国債利回り	2.913%	▲0.087%	15日。約1カ月ぶりに3%割れ
新発2年／5年債	1.896／2.312%	▲0.024／▲0.058%	15日の利回り。短中期も一様に低下
新発20年／30年債	3.777／—%	▲0.088／—%	15日の利回り。30年債の当日値は取得できず
長期国債先物(12月限)	125円60銭	+61銭	15日。寄付125円19銭、高値125円71銭
ドル円	157円94銭	—	15日15時。東京レンジ157.58〜158.33
ユーロ円	177円近辺	—	15日。東京レンジ176.52〜177.23
米10年債利回り	5.189%	▲0.024%	14日終値。日中一時5.327%
米2年／30年債	4.82／5.52%	+0.03／▲0.04%	14日終値の利回り
NYダウ	51,621.48ドル	▲48.62	14日終値、0.09%安で続落
S&P500	7,718.94	▲86.51	14日終値、1.11%安
ナスダック総合	26,692.86	▲511.52	14日終値、1.88%安
SOX指数	11,684.38	▲524.41	14日終値、4.30%安で6日続落
韓国総合(KOSPI)	5,554.22	▲454.59	15日終値、7.57%安。CB発動
上海総合指数	3,707.48	▲59.74	15日終値、1.59%安
香港ハンセン指数	24,062.72	▲251.45	15日終値、1.03%安
WTI原油(11月限)	95.09ドル	+0.95ドル	14日清算値、1.01%高で続伸
NY金(12月限)	4,107.90ドル	▲69.40ドル	14日清算値、1.66%安で3日続落

3．株式市場

寄り付き864円安、12時51分に6万4,092円

15日の東京市場は寄り付きから売りが止まらなかった。日経平均は前日比863円92銭安の6万6,880円37銭で始まり、前場は一度も戻りをつくれないまま3,255円安の6万4,489円で安値引け。後場寄りは3,385円56銭安の6万4,358円73銭、12時51分には6万4,092円(前日比3,652円安)まで下押しし、終値は3,318円34銭安の6万4,425円95銭となった。東証プライムの売買代金は10兆1,401億円で、前日の7兆4,507億円から36%増。投げ売りと押し目買いが同時に出た厚みのある商いである。

震源はコアウィーブの社債、伝わった先はアドバンテスト

引き金は日本の材料ではない。14日の米国市場でAIクラウド企業コアウィーブの社債利回りが9.75%から一時15%へ跳ね上がり、株価も15%超下落した。AIインフラ投資の資金調達コストが信用市場で値付けし直されたことで、SOX指数は4.30%安の6営業日続落となり、半導体製造装置とメモリ関連に売りが集中した。東京ではアドバンテストが前引け時点で13.9%安、キオクシアHDが12.3%安。米9月CPIの上振れで割引率が押し上げられたことも重なった。

全面安ではない――医薬・不動産・小売へ逃げた資金

33業種のうち10業種は上昇した。買われたのは医薬品、不動産業、小売業、パルプ・紙で、下落は非鉄金属、電気機器、ガラス・土石製品、機械など23業種。良品計画は今期営業増益見込みを好感して一時10.7%高で分割考慮後の上場来高値を更新し、サイゼリヤは値上げと最高益見通しで7.6%高。一方でIDOMは減益・減配・株主優待廃止で一時24.0%安となった。時事通信は後場中盤の値動きを「低バリュー株に資金逃避」と伝えており、売られたのは日本株そのものではなくAI関連の値付けだった。東証グロース250指数も3日続落したが、下落率は日経平均を下回っており、資金が小型株から一様に引いたわけでもない。

4．本日の主題：日経平均を壊した 4 銘柄と、TOPIX が守った 2.5 ポイント

日経平均の下落率 4.90%に対し TOPIX は 2.38%安。差は 2.52 ポイントある。理由は寄与度に出ている。アドバンテストが単独で 1,303 円 11 銭、東京エレクトロン 442 円 45 銭、ソフトバンクグループ 403 円 72 銭、イビデン 172 円 87 銭。この 4 銘柄で 2,322 円 15 銭、下落幅 3,318 円 34 銭の約 70%を占める（筆者算出）。

日経平均は株価の絶対水準が高い銘柄の影響が大きい株価平均型指数で、上位寄与は値がさの半導体関連とソフトバンクグループが占める。TOPIX は時価総額加重で金融・内需・資源の比重が厚い。売られたのは AI インフラの資金調達に紐づく一群であり、そこに重みを置く指数だけが壊れた。

つまり今日の下げは日本株全体の評価の下方修正ではなく、AI インフラのバリュエーション再計算である。戻りも同じ構造で決まる。日経平均の反発にはこの 4 銘柄の復調が必要で、それはコアウィーブの社債が落ち着くか、16 日の TSMC 決算が設備投資計画を維持できるかにかかる。内需株の堅調は日経平均を救わない。

5．債券・金利

株安で円債には逃避買いが入った。新発 10 年債利回りは前日の 3.000%から 2.913%へ 0.087%低下し、約 1 カ月ぶりに 3%を割り込んだ。長期国債先物 12 月限は 125 円 19 銭で寄り付き、高値 125 円 71 銭を付けて前日比 61 銭高の 125 円 60 銭で引けた。2 年から 20 年まで全年限で低下した。本日は利付国債の入札がない。米国では 14 日に 10 年債が 5.189%。CPI 上振れ直後に 5.327%へ急伸した同利回りは終盤 5.2%台へ押し戻され、15 日も FRB 高官のハト派発言で時間外金利が低下した。

6．為替・商品

ドル円は東京時間に 157 円 58 銭から 158 円 33 銭で推移し、15 時時点は 157 円 94 銭。株価の急落にもかかわらず円高が 1 円以内にとどまったのは、日米金利差が大きくリスクオフの円買いが働きにくいためである。ユーロ円は 176 円 52 銭から 177 円 23 銭、ユーロドルは 1.1153～1.1241 ドル。WTI 原油 11 月限は 14 日に 1.01%高の 95.09 ドルと続伸し 4 カ月ぶり高値圏にある。原油高は米 CPI のエネルギー項目（前月比 5.2%上昇）を押し上げた当事者で、株式には利上げ観測を通じ二重の逆風だ。NY 金 12 月限は 1.66%安と 3 日続落。株安でも金が買われないのは実質金利の上昇が効いているためで、今回のリスクオフが金利とクレジット起点であることを示す。

7．海外市場の動向

14 日の米国市場はダウが 0.09%安、ナスダック総合が 1.88%安。ダウがほぼ横ばいでナスダックが 2%近く下げた構図は、東京の日経平均と TOPIX の乖離と同じものである。SOX 指数は 4.30%安の 11,684.38 で 6 営業日続落し、10 月 6 日から 11.6%を失った（筆者算出）。15 日のアジアは半導体比重の高さがそのまま下落率になった。韓国総合株価指数は 7.57%安、KOSDAQ は 7.65%安で両市場に第 1 段階のサーキットブレーカーが発動した（年内 10 回目）。SK ハイニックスは 11.06%安。一方で半導体比重の低い香港ハンセン指数は 1.03%安、上海総合指数は 1.59%安、豪 ASX200 は 0.2%程度にとどまり、地域差はほぼ業種構成の差で説明できる。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10 年債	売買代金
10 月 8 日(木)	69,042.11	▲993.00	4,091	3.080%	7 兆 6,133 億円
10 月 9 日(金)	69,030.92	▲11.19	4,104	3.010%	7 兆 8,454 億円
10 月 13 日(火)	67,777.52	▲1,253.40	4,110.67	3.005%	7 兆 9,640 億円
10 月 14 日(水)	67,744.29	▲33.23	4,096.78	3.000%	7 兆 4,507 億円
10 月 15 日(木)	64,425.95	▲3,318.34	3,999.34	2.913%	10 兆 1,401 億円

9．総括と注目点

本日の東京市場は、指数の数字の大きさと傷の広がりが一致しない日だった。歴代 3 位の下げ幅という見出しは 4 銘柄の下落を株価平均型指数が増幅した結果であり、TOPIX の 2.38%安と 561 銘柄の値上がりがそれと同時に存在する。問われているのは日本企業の収益力ではなく、AI インフラへの巨額投資が 5%超の米長期金利と信用市場の値付けに耐えられるかである。この問いが債券市場から投げられたからこそ、金利が下がった日に株が最も大きく下げた。

- 16 日の東京時間に予定される TSMC 決算。設備投資計画と受注見通しの維持が、アドバンテストと東京エレクトロンの寄与度を通じて日経平均に直接跳ね返る。
- 米 9 月の生産者物価指数と小売売上高。CPI の上振れを裏づける内容なら 10 月 FOMC の追加利上げ織り込みがさらに上がり、割引率の再上昇を招く。
- コアウィーブの社債利回りと AI 関連クレジットのスプレッド。株価より先に信用市場が動いた順序は先行指標として使える。20 日の 20 年利付国債入札も円債需給の試金石となる。

脚注

- 国内数値は 2026 年 10 月 15 日大引け時点。東証プライムの売買代金・売買高は速報集計で確報で修正される場合がある。10 月 12 日はスポーツの日で東証は休場。
- 騰落銘柄数は株探の大引け記事（15 時 32 分配信）の値上がり 561・値下がり 946・変わらず 39 を採用。フィスコ配信の 36.3%・61.0%と整合し、値下がり優勢という方向も TOPIX の下落・上昇 10 業種と矛盾しない。
- 寄与度は株探の大引け記事（15 時 32 分配信）とフィスコ「日経平均寄与度ランキング（大引け）」（16 時 39 分配信）で一致を確認。上位 4 銘柄合計 2,322 円 15 銭、下落幅に対する比率（約 70%、アドバンテスト単独約 39%）、SOX 指数の 6 営業日下落率 11.6%は筆者算出。
- 日経平均の日中高値、新発 30 年債の当日値（前日 14 日は 4.045%）、新発 10 年債の日中高安は取得できず「—」とした。安値は 12 時 51 分の 6 万 4,092 円。10 月 8 日・9 日の TOPIX と売買代金は整数表示の出典に基づく概数。
- NY 金 12 月限は 4,107.90 ドル（69.40 ドル安、1.66%安）を採用。フィスコ配信の 4,122.35 ドルとは水準が異なるが、前日清算値 4,177.30 ドルと騰落率の検算が合う前者を採った。WTI 原油 11 月限は 13 日清算値 94.14＋0.95＝95.09 ドルの検算一致を確認。
- 本資料は生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆したものである。出典：日本経済新聞、株探、フィスコ、QUICK、共同通信、時事通信、デイリースポーツ、マネックス証券、OANDA 証券、みんかぶ FX、ザイ FX!、日本証券新聞、日本相互証券、Seoul Economic Daily、財務省、日経平均プロフィル。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。